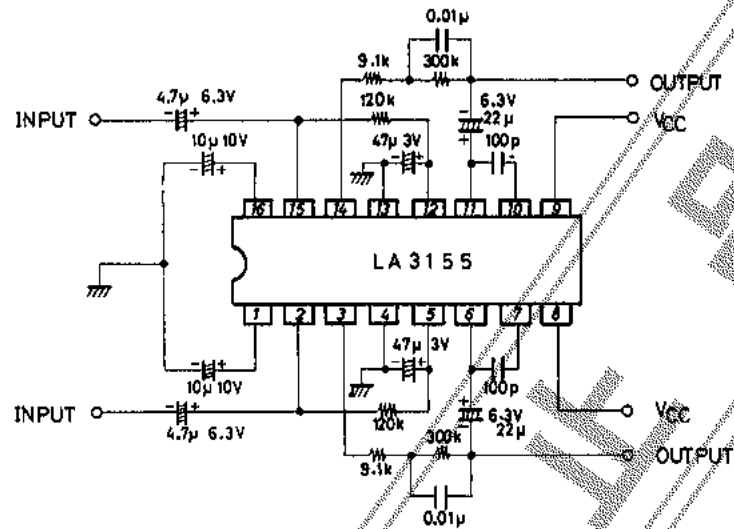
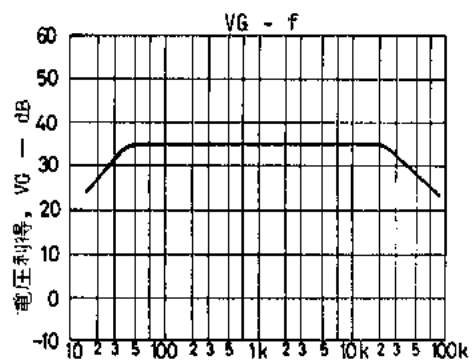
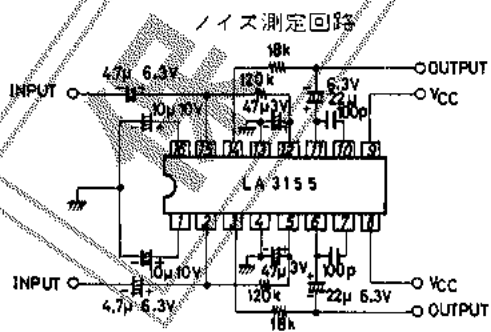
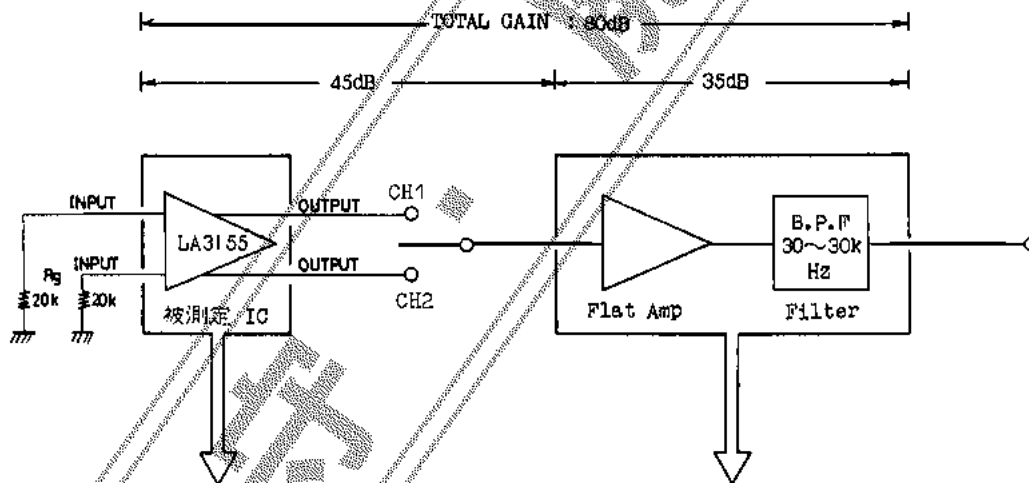




指定測定回路

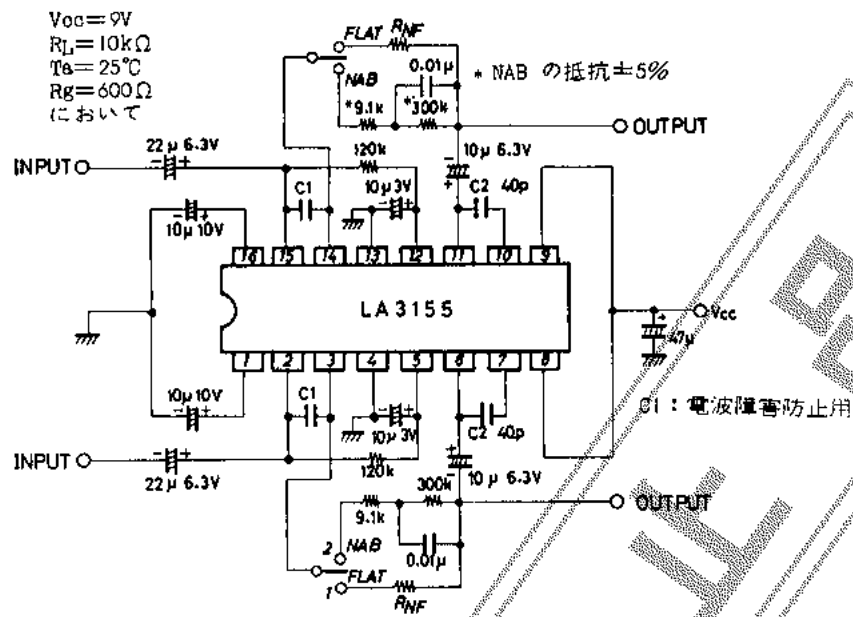


Noise 測定回路

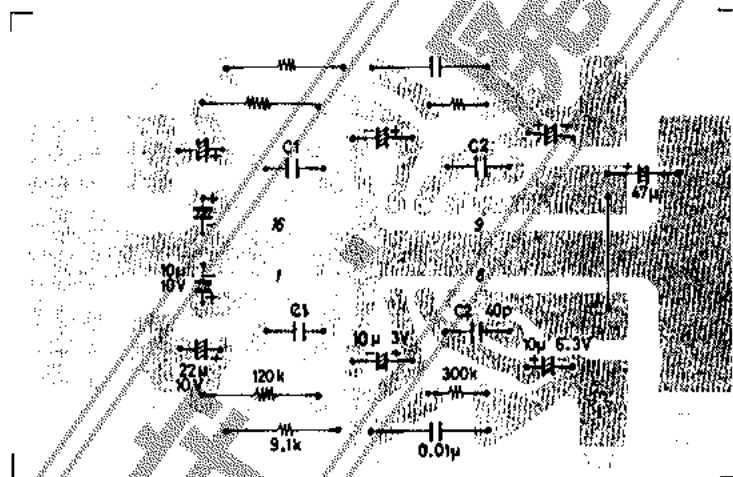


Noise 測定回路の周波数特性

## ■ 応用回路例



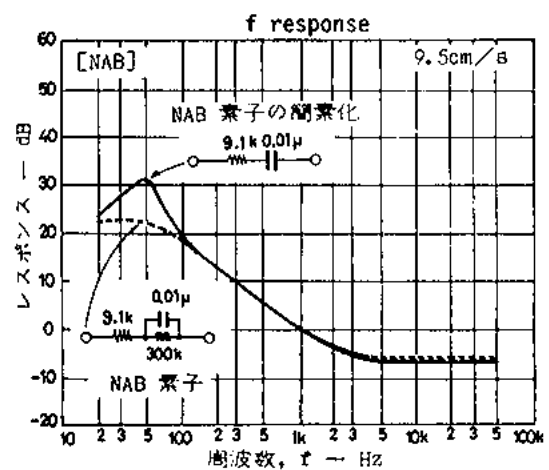
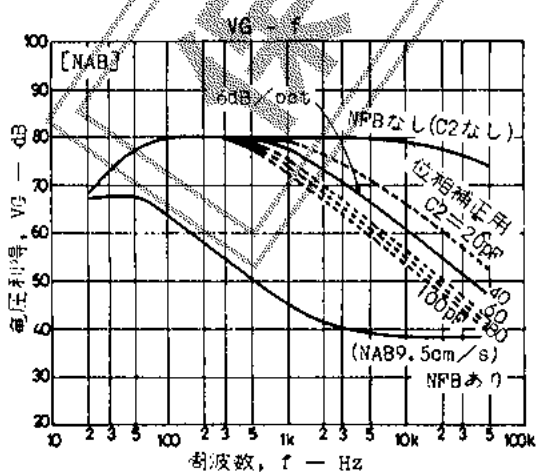
プリントパターン例/NAB

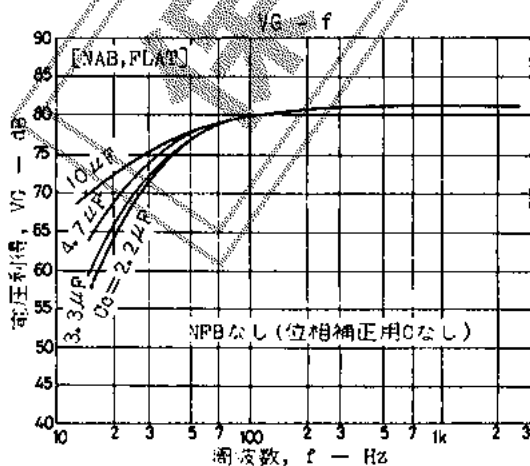
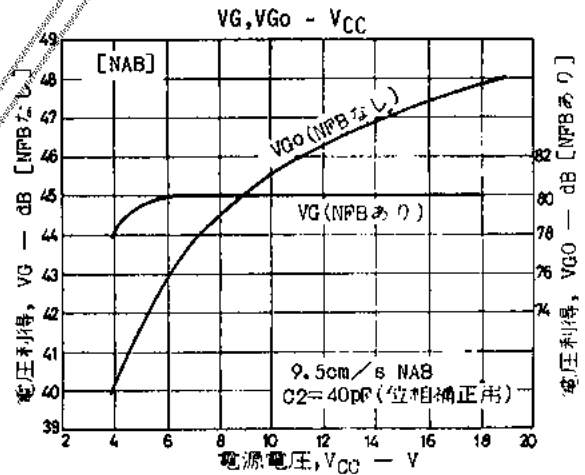
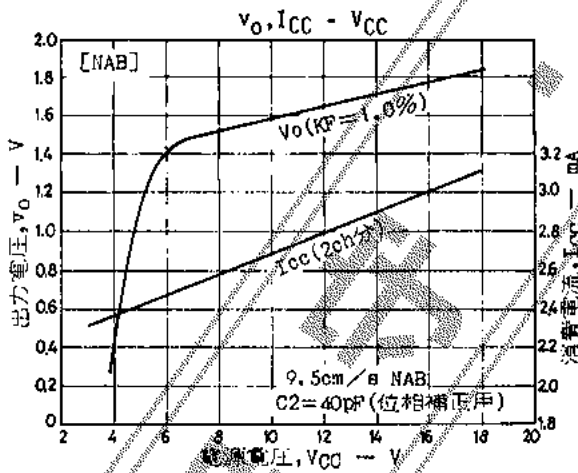
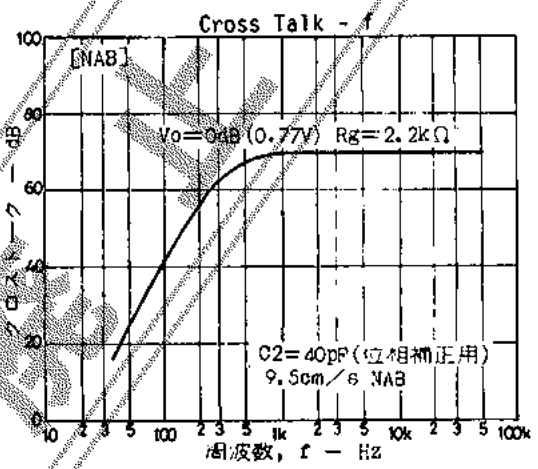
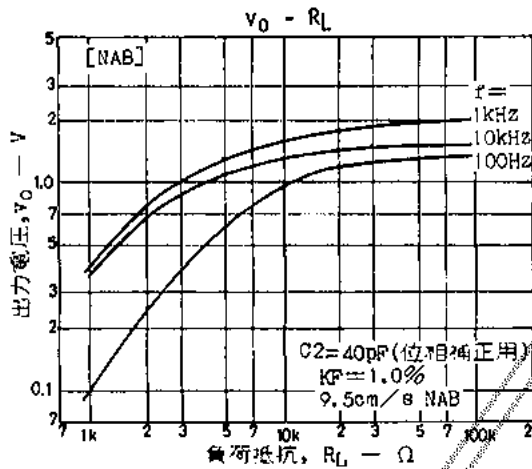
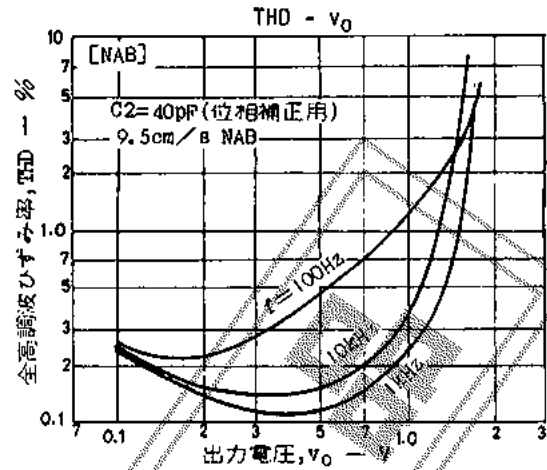
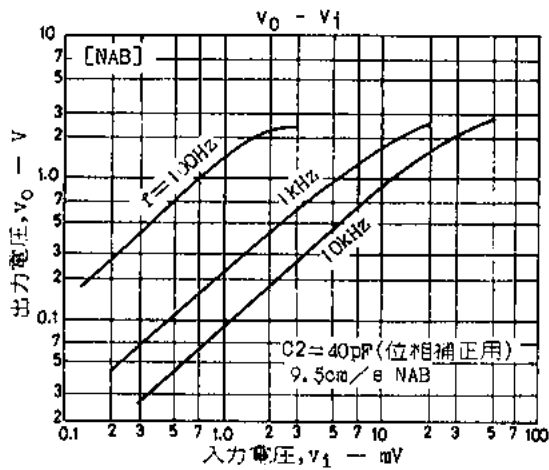


40x62mm (銅ハク面)

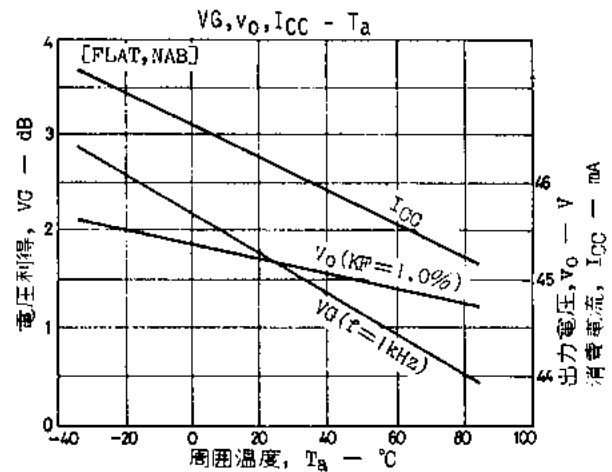
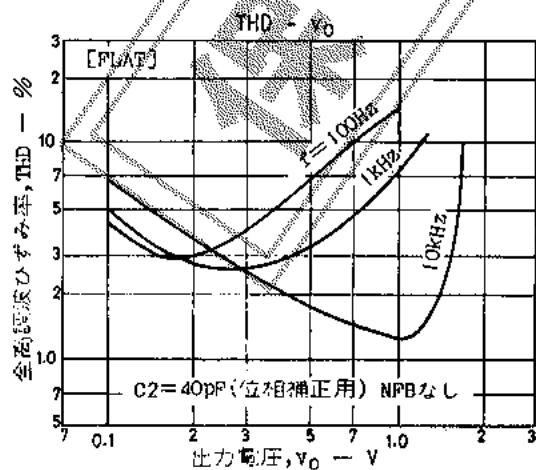
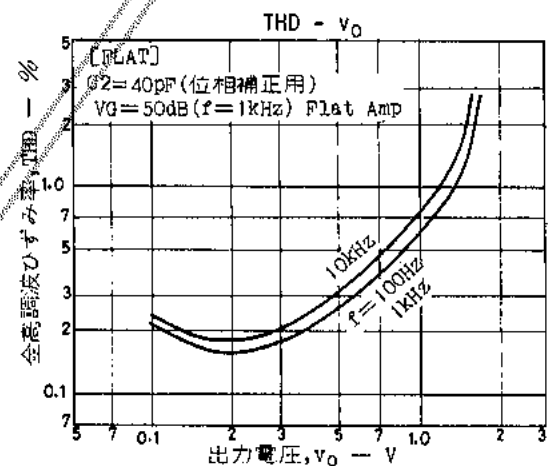
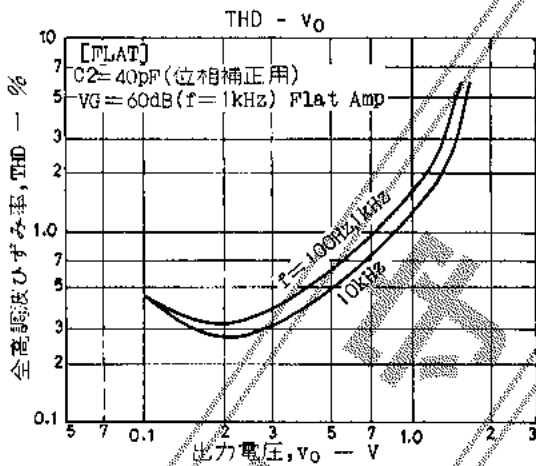
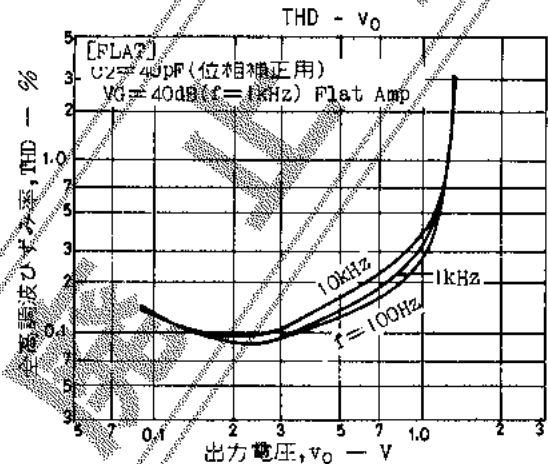
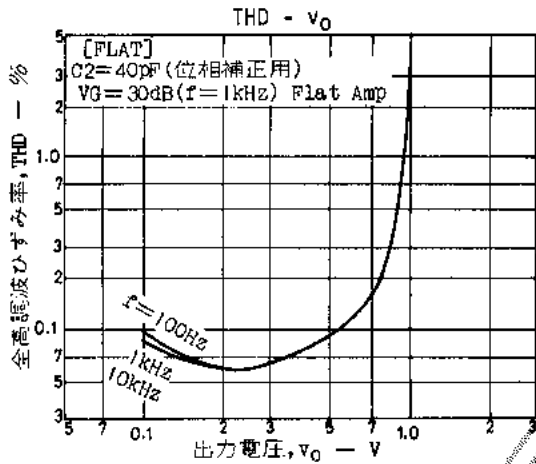
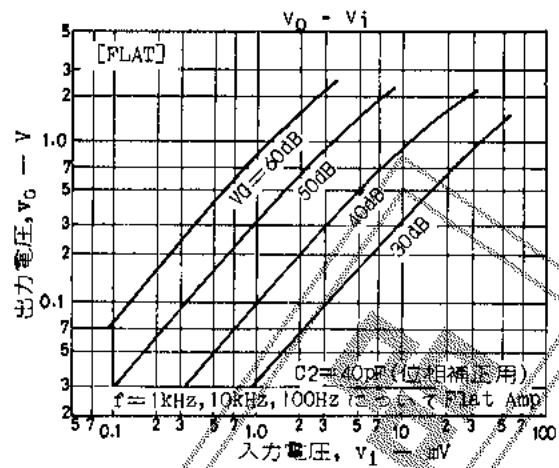
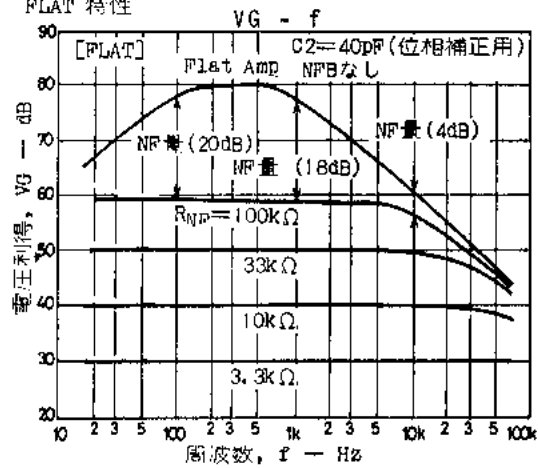
カタログに示してある参考パターンを必要とされるユーザの方はご連絡ください。

## NAB 特性

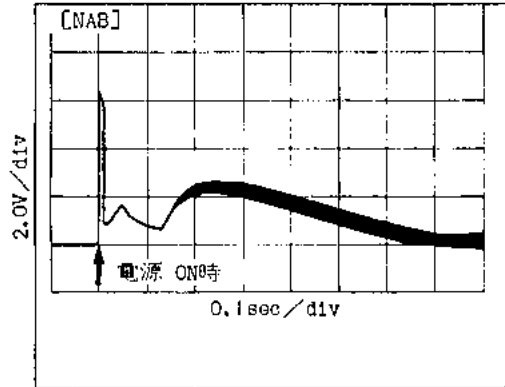




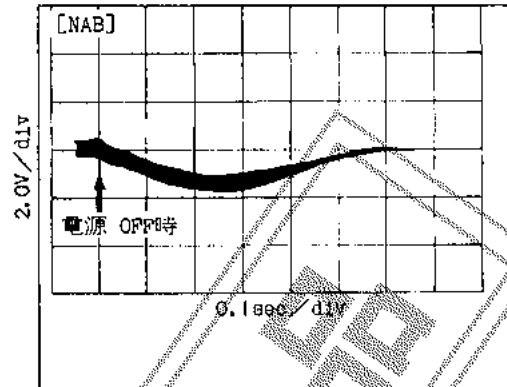
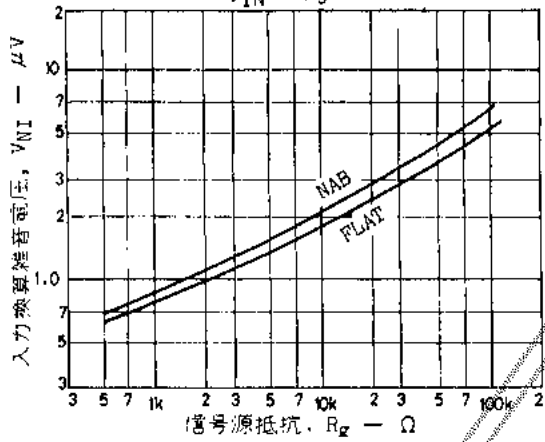
FLAT 特性



Shock Noise

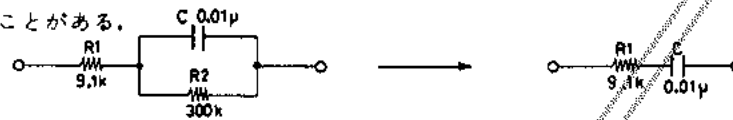


Shock Noise

 $V_{IN} - R_g$ Shock Noise Wave Form (FLAT,  $R_g = 20k\Omega$ )

## LA3155 のコメント

1. テープレコーダを放送局の近くなどの強電界下で用いた場合 電波障害が生じたり、車載用として用いた場合 エンジンノイズによる 障害が生じたりすることがある。 そのような 場合は ②－③ 間 および ④－⑤ 間に 1000pF 程度のコンデンサを入れる。
2. イコライザ特性に高精度を要さない場合は、下記のように R2 をとりはずして R1 と C のみで 帰還素子 を構成しても充分使用することができる。ただし その場合  $f=100\text{Hz}$  以下の周波数特性が 標準 NAB カーブ より上昇することがある。



3. ④－⑬ ピン間には 微少な抵抗分があるため オーバ オールで LA3155 の片チャンネルのみの アースと した場合 クロストークの悪化、発振が生じるなどの恐れがあるので 必ず ④, ⑬ ピンには、個別にアースをする。
4. LA3155 は 80dB という大きな開ループ利得 (1kHz) を持っているので 開ループ利得が 20～50dB (1k Hz) の NAB特性を持つアンプ、RIAA特性を持つアンプ、および フラットアンプ等に用いることができる。 応用回路では 45dB の利得 (1kHz) をもつ NAB特性としての イコライザアンプ の例を 記載してあるが、 いろいろな利得を得るための 帰還素子の例を下記にしめしておく。なお抵抗の誤差は  $\pm 5\%$  のものを用いるものとした。

1kHzの利得	NAB(9.5cm/sec)	RIAA	FLAT
30 dB			
35 dB			
40 dB			
45 dB			